

戸田康之さん『国際サイン』（2月22日配信）

戸田です。よろしく。

今日お話しするのは、国際手話についてです。

私が今チャレンジしているのが、国際手話の勉強です。

講師とマンツーマンで受講していますが、対面はできないのでオンラインで必死にやっています。

改めて、国際手話がみなさんに誤解されているところがあるなあと思ったことがあります。それは、日本手話と同様、国際手話も言語であると誤解している人が多いんです。そうではありません。

国際手話は、言語ではありません。コミュニケーション手段ではありますが、言語とは違います。

例えば、『日本手話』を英語にすると、こちら。『JSL』となります。『J』は Japanese、『S』はサイン (Sign)、『L』は“言語”という意味の Language です。日本手話の場合、言語という意味の『L』が入っているので、言語であるとはっきり言えます。

では、国際手話はどうでしょうか。『国際手話』を英語に直すとこうなります。『IS』です。『I』は International、“国際”という意味です。『S』はサイン (Sign)。“言語”という意味の『L』は入っていません。ですから、国際手話は言語ではないんです。

ですから、講師も言っていました。「私は『国際手話』とは言わない。『国際サイン』…手の形が同じなのは仕方ないとして、口形は“サイン”で『国際サイン』なんだ」と。『国際手話』が言語だと誤解されないように…という話に納得させられました。ぜひ覚えておいてくださいね。

もう1つ分かったことは、国際サインは1つだけだと思っていたのですが、そうではなかったということです。国際サインには4つの型があるんだそうです。ヨーロッパ型、アフリカ型、アジア型、南米型という型があるんです。国際サインには4つの型があって、それぞれ少しずつ違いがあると教えてもらい、面白いなと思いました。今、一生懸命勉強しているところです。

勉強している中で気づかされたことがあります。手話講習会で手話の勉強をしているみなさんの気持ちが身に染みてよく分かったんです。

国際サインが読み取れなかったときに不安になる気持ち。1つ単語が分からないとその単語に気を取られてそれ以外の文章も読み取れなくなってしまうことがあるんです。みなさんも同じではないですか？手話を勉強しているみなさんも、1つの単語に引っかかってしまうとその前後の文章まで読めなくなってしまう…私も同じです。

分からないところがあっても、読み取れない単語があってもいいんです。今分

からなくてもいつか分かる日が来ると思って、とにかく表出された国際サインの大まかな内容を掴むことを大事にしています。1つの単語にこだわって話理解できません。分からない単語があっても大枠を掴むようにしています。

ですから、手話を勉強する時も単語にこだわらず、こんなことを話しているな、というのが分かればいいんです。分からない単語があったとしても、今は分からなくてもいつか分かる日が来ます。私もそうです。大体の内容を掴みながら会話を楽しんでいます。

また、相手の話していることは分かってきても、今度は自分から話をするのができないんです。相手の話はだんだん理解できるようになってきて、自分も何か話したいと焦っても、表出はなかなかできないんですよね。でもそれは当然です。まず読み取ることが先で、自分から表出できるようになるまでには相当な時間がかかるんです。ですから、手話を勉強していて、自分から手話で相手に話したいと焦る必要はありません。少しずつでいいんです。とにかく、相手の話の内容を掴み、理解できる内容が増えてくれば、自然と自分から話をするようになります。私も国際サインの表出はまだたどたどしくて、相手のサインを読み取り、理解できる量を増やしている段階です。

手話学習中も、おおよそでいいので相手の話の内容を理解することが大事です。そして、焦って自分から何か表出しなきゃと思わなくても大丈夫です。まず相手の手話を見ることを大切にしてください。

一緒に頑張りましょう！